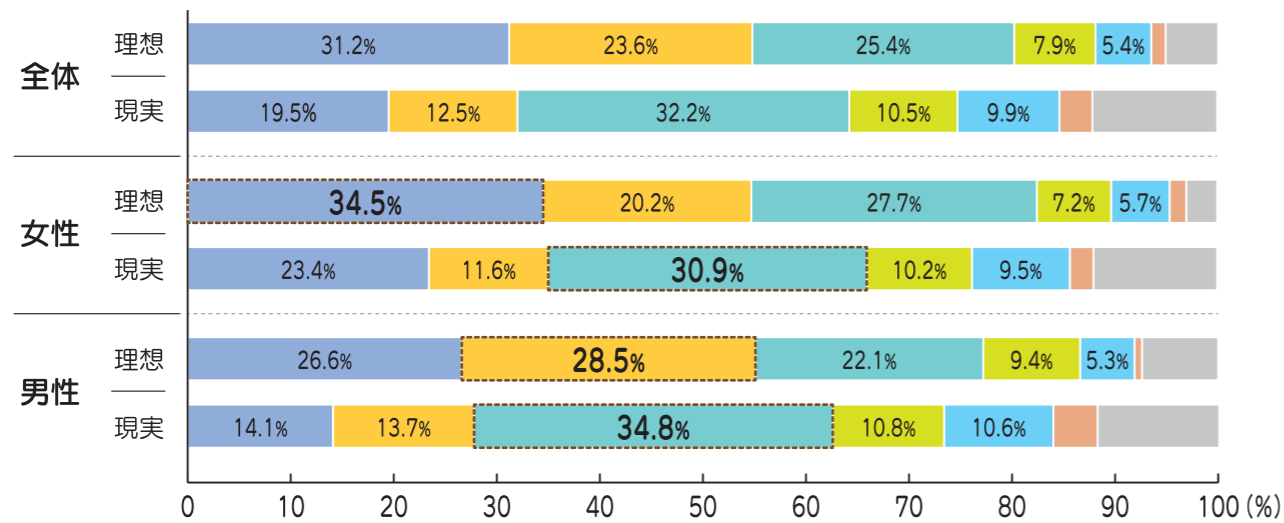


### 3 女性の仕事についての考えて、あなたの理想と現実に一番近いものは？

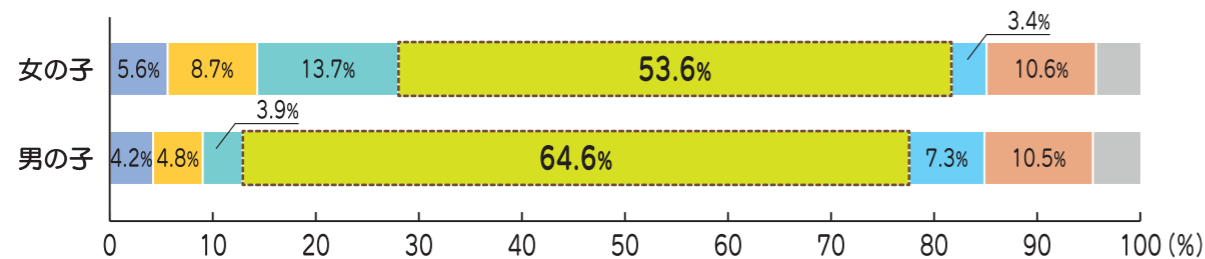


女性では、「結婚や出産後もずっと仕事を続けたい」と思っている人の割合が最も高く、男性では女性に対して、「子育ての時期に仕事は一時的にやめて、その後はフルタイムで続けてほしい」と思う人の割合が一番高いです。しかし、現実には「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」女性の割合が最も高くなっています。



- 結婚や出産後も、ずっと仕事を続ける
- 子育ての時期に一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続ける
- 子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける
- 子どもができれば仕事をやめる
- 結婚したら仕事はやめる
- 仕事はもたない
- わからない

### 4 子どもにはどこまで進学することを期待しますか？

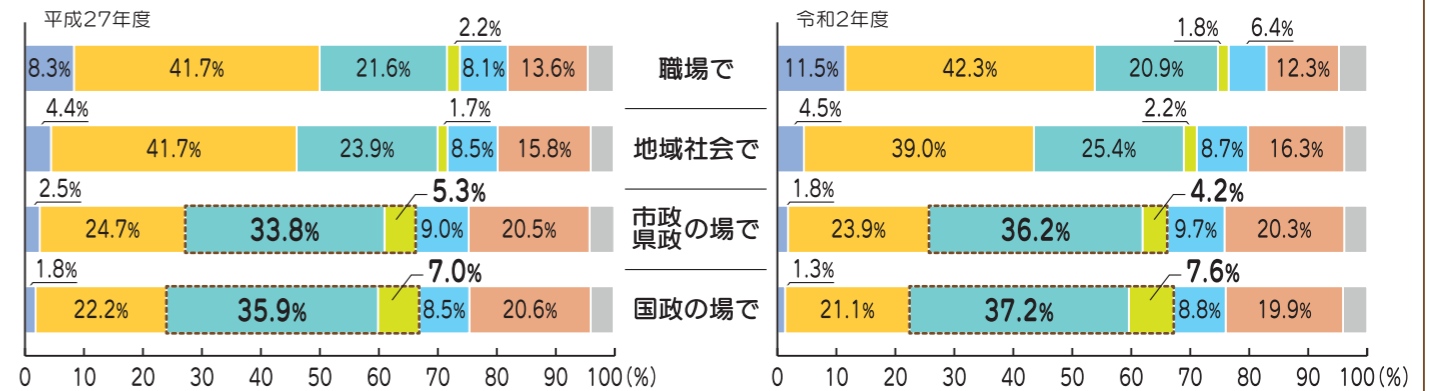


女の子・男の子ともに「大学まで」の割合が最も高くなっていますが、女の子の方が11ポイント低くなっています。



- 高等学校まで
- 専門学校・各種学校まで
- 短期大学・高等専門学校まで
- 大学まで
- 大学院まで
- その他
- 無回答

### 5 方針や政策を決めるとき、女性の意見はどの程度反映されていると思いますか？

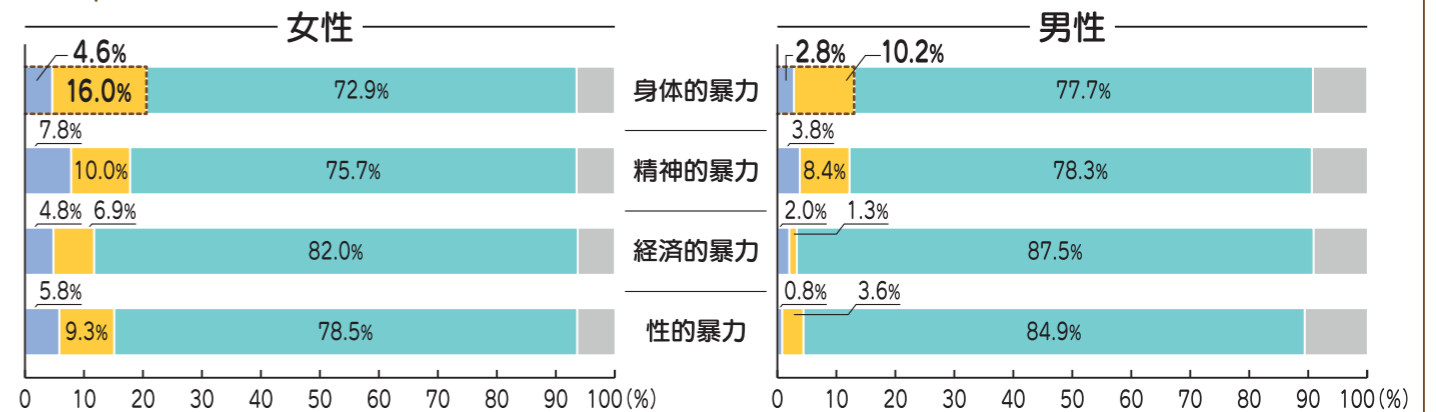


特に政治の場では、女性の意見が反映されていないと感じている人の割合が高くなっています。



- 十分に反映されている
- どちらともいえない
- ある程度反映されている
- わからない
- あまり反映されていない
- 無回答
- 全く反映されていない

### 6 配偶者等からのDV(ドメスティック・バイオレンス)の被害経験は？



身体に対する暴力を受けたことがあるのは、女性では5人に1人、男性では8人に1人になります。



- 何度もあった
- 1,2度あった
- まったくない
- 無回答

今回の市民意識調査では、「男性は仕事、女性は家庭」という性別役割分担に反対する人の割合が前回の調査より増えたことなどから、男女共同参画の理念が着実に浸透していることがうかがえます。一方で、政治の場で女性の意見が反映されていないと感じている人が多いことなどの課題も浮き彫りになりました。男女が社会のあらゆる分野でより平等になるためには、固定的な社会通念や慣習の見直しを進めるとともに、一人ひとりが男女共同参画を自分自身の課題と捉え、身近なところから積極的に取り組んでいくことが重要です。

市民意識調査報告書は市ホームページからご覧になれます。

鹿児島市 男女共同参画 調査 [検索](#)